

WATER

&

THE YANBA

vol. 32

まだダムにこだわるのか？～ 川辺川ダムも石木ダムも 南摩ダムも要らない～

昨年は、大型台風とその影響により、多数の河川が氾濫・決壊し、広範囲で洪水が起きました。長野で新幹線が水に浸かった映像は強烈でした。千葉県でも中小河川による洪水がありましたが、利根川・江戸川が氾濫・決壊しなかったため「ハッ場ダムのおかげだ」という間違った情報がありました。当時、ハッ場ダムは湛水を始めたばかり、ほとんど空っぽだったのです。湛水後ならば、あの大量の雨水を貯めきれず、「緊急放流」もあったのではないかとされています。

今年7月、熊本県の球磨川で大洪水が起きましたが、国交省は10月には、川辺川にダムがあれば浸水面積の6割は助かったと発表。流域自治体からはダム建設の復活を求める動きが始まっています。しかし、すでに利水は必要なく、治水に特化した「穴あきダム」との話が出ています。例え、穴あきダムでも球磨川の豊かな清流は守れませんし、ダム建設には時間と多額の費用が必要です。

被災者の救済、被災地の復興、堤防の強化、川底の掘削等を急ぐべき時に、急浮上したダム建設論は、巨大事業欲しさの利権話でしかありません。

どこでも水は余っています。長崎県の石木ダムも、栃木県の南摩ダムも今さら要らないのです。治水面でもダムへの不信感が生まれ、「流域治水」こそが大切だと言われる現在、ダムにこだわる理由はありません。千葉県は『南摩ダム』に参入していません。監視していきましょう。

(武笠紀子)



ハッ場ダム天端及び湖名碑（全景） 令和2年6月撮影

CONTENTS

- 💧 まだダムにこだわるのか？ ～川辺川ダムも石木ダムも南摩ダムも要らない～ …………… 武笠紀子
 - 💧 真の文明は山を荒らさず ～思川開発が動き出した～ …………… 大野博美
 - 💧 町民のために、堰堤のない治水・利水を求めて…炭谷 猛
 - 💧 命と財産を守る流域治水を …………… 川口えみ
 - 💧 編集後記「ハッ場ダムは今…」 …………… 松島こずえ
- 編集：猪俣悦子

水問題とハッ場ダムを考える千葉の会

代 表：武笠紀子・大野博美

住 所：〒270-0007 松戸市中金杉4-71-2

TEL：090-9365-9608（武笠）

WEB：「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」
で検索してください。

2020年11月27日発行

ハッ場ダムに行ってきました！

8月2日、「ハッ場あしたの会」が主催する現地見学会に、さくらネットから6人（五十嵐、伊藤、大野、川口、松島、宮田）参加。渡辺洋子さんのガイドで、地滑りの危険性や、変わりゆく現地の模様をつぶさに見てきました。

大野博美



←ハッ場ダム周辺一帯は、2万5千年前に噴火した浅間山からの泥流が押し寄せ、堆積した土地。地滑り危険地帯だらけだが、国交省は危険基準も示さず、対策も不十分なままである。ダム湖岸には、押さえ盛り土で地滑り対策をしている箇所があちこちに。本来なら鉄鋼の杭を打ちこむべきところ、工事費削減で盛土のみ。安全性より経済性優先か。



→ダムの天端から見下ろしたら、まだ見学客用のエレベーターなどの工事が進行中。完成したら、下まで降りて行けるのか。右端に放水が見える。大雨でダムが満杯となり緊急放流するような事態にならないよう、切に望む。



↑川原湯温泉駅前に出現したキャンプ場。日陰も木立もない平面に、無機質なテントが並ぶ。周りにはいくらでも豊かな自然があるのに、なぜこんな人工的なキャンプ場を作るのか。

→湖面をすいすい、水陸両用バス。大人3500円と高いにも関わらず大人気。この日もチケットは売り切れで、私たちは乗れなかった。しかしガラスが割れて運行休止などトラブル続き。



←今年8月2日。堆積泥土はなくなったが、川幅は以前とほとんど変化がない。今後、ダム底の堆砂が課題となってくる。



←昨年11月12日の上流部分。台風19号で大量の土砂が流入し、数メートルの高さまで堆積した。

→「川原湯温泉 遊びの基地 NOA」地元温泉街のオーナーたちが出資してできたのだが、運営は東京の企業。内部はカフェや運動場など、ありふれた無個性な内容。もっと、川原湯温泉らしさを残せなかったのか。これでは集客は期待できない。



↑丸岩大橋をバックに集合写真。前列右から松島、川口、伊藤、嶋津、後列右から3人目が宮田、左端が五十嵐、カメラマンが大野。

町民のために、堰堤のない治水・利水を求めて

長崎県東彼杵郡川棚町議会議員／石木ダム建設計画地現住民 炭谷 猛

私は長崎県と佐世保市が進める「公共事業」のために、江戸中期から代々受け継いできた我が家の土地の所有権を失った現住民です。2013年、国は石木ダム建設事業の「公益性」が個人の利益に優るとして、土地収用法に基づく「事業認定」を行いました。以後、長崎県は私たちの意思を無視して、土地の強制収用の手続きを着々と進めています。私たちが受け取りを拒否した補償金は、法務省に供託することで払い渡したことにして、所有権を剥奪し、明け渡しを迫り、その最終期限日であった昨年11月18日以降は、住民も家屋も実力で強制排除する「行政代執行」をも辞さない、益々強権的になりました。

それでも私たち川棚町川原（こうばる）地区13世帯は、石木川のほとりで日々の暮らしを頑張っ続けています。先祖が築き残してくれたふるさとで生活が続けることこそ、行政の無恥と横暴に抗する闘いであるからです。今年も例年通りみんなで田植えして、稲刈りも終わりました。不要なダムのために、自分たちの代でこの地を手放す謂れは一つありません。

ダム本体（堰堤）に寸断される県道の付け替え工事現場で続けてきた座り込み抗議行動（2016年7月以降の「第4次」座り込み）も、やがて通算1000日に達するでしょう。ただ、ここ数か月で、



川原地区だけでなく、隣の岩屋・木場地区でも、その関連と思しき工事がそそくさと始められています。見慣れた風景があちこちで侵食されていきます。口惜しくて、はがゆくて、言葉に尽くせぬ思いでいっぱいです。ダム建設は自分や家族の命を脅かすだけでなく、他の町民にとっても同様の重大問題だと思うのです。

石木川は、本流・川棚川に下流部で合流する小さな支流です。この川を巨大なコンクリートの堰堤でせき止め、里山ごと沈めてダム湖を造ることで、川棚町がどれほど不利益を被るか。町はこれまで、ダムの治水面で「受益者」とされる町民に対し、情報提供を怠ってきました。



今年の我が家の稲刈りでは、孫たちが大活躍しました。コンバインも使いますが、猪に倒された稲や、台風の被害に遭った田んぼの稲は手で刈り取るので、家族総出で行います。

仮に石木ダムに治水効果があったとしても、川棚川の流域全体から見れば極めて限定的なものです。近年各地で多発している豪雨災害に学ば、ダムによって下流域での危険性は増すと考えられます。また、これまで町の水道水は2～3割を石木川の水で賄っており、その水質は里山の自然と暮らしによって保たれてきましたが、ダムを造れば、町民はダム湖に滞留した水を飲まされることになります。さらには流域の生態系が激変し、海にも影響が出るでしょう。

にもかかわらず、石木ダムの効果や弊害について町が独自に調査研究を行った形跡はなく、町長に議会で見解を質しても、県が仮想のデータを基に作成した資料をそのまま読み上げるばかりで、問題と向き合う姿勢はまったく見られません。

ダムと引き換えに失うものを、今、町民に伝えなければなりません。全国の皆さまの経験や知見に学びたいと思います。一刻も早く！ どうかご協力を、お願い申し上げます。

→ (10/25 長崎新聞紙面)

県道付け替え工事現場では先月から、私たちが座り込みをしている場所に土砂が運び込まれるようになりました。現在は、月～土曜の朝から夕方まで時間を延長し、交代で座り込んでいますが、県は工期を年末まで延ばして何としても進めようとしているようです。工程表では、今年度中に本体工事に着手することになっており、その予定地ではボーリング調査が行われています。



石木ダム付け替え道路工事現場

土砂搬入で深まる対立

県道付け替え工事現場では先月から、私たちが座り込みをしている場所に土砂が運び込まれるようになりました。現在は、月～土曜の朝から夕方まで時間を延長し、交代で座り込んでいますが、県は工期を年末まで延ばして何としても進めようとしているようです。工程表では、今年度中に本体工事に着手することになっており、その予定地ではボーリング調査が行われています。

県道付け替え工事現場では先月から、私たちが座り込みをしている場所に土砂が運び込まれるようになりました。現在は、月～土曜の朝から夕方まで時間を延長し、交代で座り込んでいますが、県は工期を年末まで延ばして何としても進めようとしているようです。工程表では、今年度中に本体工事に着手することになっており、その予定地ではボーリング調査が行われています。

県「説得続ける」住民「脅し」と反発

私物申告、撤去あす期限

国土交通省によると、道路沿いの不法占有物(有償物)は▽相手方がわからない▽危険度が大きい▽撤去費用に相当するの要件を満たすと、道路法で撤去できる。所有権がない場合は口頭や書面による行政指導などを要する。行政執行法の手続きを踏むのが一般的だ。住民側は県に対し、現場の私物を支援者を含めたみんなの物と説明。県は今後の方針について「25日以降の状態を見てからの判断になる。仮定の話には答えられない」としている。(六倉大輔、朝日新聞)

←こうばるの里の自然や暮らしを知ってもらうための稲刈りイベントを終えて、みんなで撮った記念写真。長崎市の子もたちや福岡市の若者たちも初めての体験を楽しんでくれたようです。右端が筆者。



命と財産を守る流域治水を

10月31日、嘉田由紀子参議院議員（前滋賀県知事）のオンライン学習会に参加し、流域治水について学びました。

川口えみ

2020年7月 球磨川の水害調査

線状降水帯が12時間停滞し、24時間で500mmを超える豪雨で、50人の溺死被害（65歳以上が86%）がありました。球磨川の上流には川辺川ダム計画があります。球磨川豪雨検証委員会は、川辺川ダムの効果を、「浸水域6割減少・3m以上の浸水域9割減少」と発表しましたが、嘉田さんは疑問を持ち犠牲者の当事者調査を行いました。その結果、川辺川ダムができていたら命が救われたと推測できる人はわずか3人、40人はダムでも救えないことがわかりました。一人も残さず命を救うには「流域治水」が必要です。

「流域治水」で命を守る

嘉田さんは滋賀県知事時代、2014年にどのような洪水でも人の命を守るため「流域治水条例」を整備しました。床上浸水など生活再建が難しくなる被害を避けるための、地域性を考慮した総合的な治水対策です。

- ①「ながす」 河川における氾濫防止対策
河川の掘削、堤防強化（耐越水堤防）
- ②「ためる」 雨水貯留浸透槽、調整池機能の確保
水田、森林（建物、公園、運動場などの管理者等が、雨水を溜めたり浸透させたりすることを努力義務化）
- ③「とどめる」 まちづくりでも治水
土地利用、かさ上げ、建物（2階建て以上）
10年確率の降雨の際、50cm以上の浸水予想区域は、新たに市街化区域には含めない。
- ④「そなえる」 人育てでも治水
避難計画の策定・防災訓練、移動困難者の避難補助、水害履歴調査

先人の知恵に学ぶ

かつては浸水しやすい地域には、家を建てませんでした。川から水が溢れることを前提に、水防組織で水害対応にあたり、川は身近な存在でした。しか

しその後、川の管理者は国・県などになり、大型公共工事に組み込まれ、治水対策が住民の手から離れていきました。気候変動で設計基準を超え

る洪水で被害が激甚化。今こそ住民たちが土地の特性を知り、川と付き合っていくことが必要です。

「流域治水」のイメージ図



滋賀県の先進的な取り組み

そこで滋賀県は、浸水・土砂災害など地域ごとに一枚の地図にした「地先の安全度マップ」を作りました。県議会・市長会から「地価が下がる。責任を取れるのか」という抵抗がありました。また土地を売買の対象と考える人の多くが反対しました。新住民は土地勘もなく、「一生に1度買えるかどうかという家を、知らずにリスクの高い土地に購入したくない」と思っています。

また、ダムのような大型公共事業は大手業者の一時的な工事です。河川改修や農業水源確保事業の方が地元の業者が直接工事に参加でき、迅速で費用も安く、地域経済を潤します。嘉田さんは知事時代の8年間、6つのダム事業を全て中止か凍結にし、3000億円の予算削減をしました。

流域治水政策の全国展開

2020年7月国も流域治水に舵を切り始めました。滋賀県流域治水条例にある不動産取引の際の重要事項説明でハザードマップを示すことは、8月28日から法律で義務化しました。また国は、「立地規制についても「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会」で検討しています。



真の文明は山を荒らさず ～思川開発が動き出した～

大野博美

「思川開発」とは、栃木県鹿沼市で、今から50年も前の高度経済成長期に計画されたダム計画だ。その後30年以上に及び反対運動や住民訴訟の紆余曲折があり、水没予定地の住民は諦めて代替地に移転。ハッ場ダムそっくりの経過をたどっている。

当初は「首都圏の水がめ」という大義名分があったが、近年水需要は激減し、当初参画していた東京都も千葉市も撤退。しかし千葉県では、北千葉水道企業団がまだ参画している。総事業費は1850億円。千葉県は、わずか7万6千人分の飲み水に50数億円払う。関連工事が断続的に進められてきたが、ついに来年から南摩ダムの本体工事が始まる。完成予定は2024年度。

自然破壊の無理やりダム

実は、17年前、私は初めての県議会質問で、思川

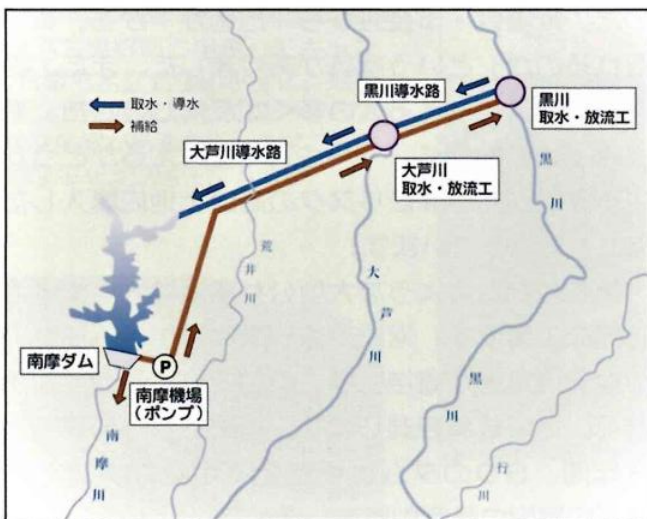


開発について見直すよう質問した。千葉県も撤退すれば、こんな無謀なダム計画は止まる。私は冒頭で、足尾山地を源流とする思川にちなみ、田中正造の有名な一文を引用した。

“真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らず、人を殺さざるべし…”

私の頭には、1カ月前、現地視察した思川開発の南摩ダム予定地の光景があった。驚くほど小さな南摩川では水量が足りず、遠く離れた黒川と大芦川から水を引くために、山の中に導水管を通す。山も川もズスタに切り裂く大工事だ。治水効果も、利根川水系にとってはオチョコ一杯ほどの効果しかない。

人生初めての議会質問。無駄な公共事業を止めたい一心で、必死に執行部に食い下がったが、空しい答弁しか返ってこなかった。その晩、あのせせらぎとしか呼べないちっぽけな南摩川の運命を想い、ひとり泣いたことを今も思い出す。



編集後記

ハッ場ダムは今…

ハッ場ダムに行ってきました。観光の目玉として、7月18日から運行開始した水陸両用バスは、2か月で6000人も観光客が乗車。連日ほぼ満員のようです。我々一行も乗る気満々でしたが、事前予約できず当日券が先着順のため、完売で乗れませんでした…。このバスはダム受益者の利根川流域都県が負担する資金で、長野原町が1億3000万円で購入したそうです。バスは町のキャラクター「にゃがのほら」がペイントされたカラフ

ルな仕上がり。勢いよく水しぶきをあげて入水する大迫力の「スプラッシュ・イン!」と謳っていましたが、10月9日スプラッシュした時に水圧でガラスが割れたと報道が。現在はキャラクターがいない代替車両で運行中です。周辺では観光施設が続々とオープンしており、11月1日に「なるほど!ハッ場資料館」がオープン。ダムカードの配布も始まり、賑わいをみせているようで、キャンとも複雑な思いです…。 (松島こずえ)